

**BULLETIN OF IWATE PREFECTURAL
FISHERIES TECHNOLOGY CENTER**

No.6 February, 2006

岩手県水産技術センター研究報告

第6号 平成18年2月

岩手県水産技術センター

岩手県釜石市大字平田

IWATE PREFECTURAL FISHERIES TECHNOLOGY CENTER

HEITA, KAMAISHI, IWATE, 026-0001, JAPAN

岩手県水産技術センター研究報告

第6号

目 次

津軽石川、織笠川および片岸川に遡上するシロサケ集団の遺伝的特徴の経年比較小林 俊将・小川 元・高橋 憲明・大友 俊武・坂本 晋.....	1
サクラマス <i>Oncorhynchus masou</i> 資源造成技術の開発について大友 俊武・清水 勇一 高橋 憲明・大友 俊武・清水 勇一 高橋 憲明.....	7
ゴマフエダイの岩手県からの初記録 (英文)	後藤 友明.....15

津軽石川、織笠川および片岸川に遡上するシロサケ集団の遺伝的特徴の経年比較

小林 俊将・小川 元・高橋 憲明・大友 俊武・坂本 晋

2003年の前期（10月下旬～11月上旬）、中期（11月中旬～11月下旬）および後期（12月上旬～12月中旬）に津軽石川、織笠川および片岸川に遡上したシロサケ*Oncorhynchus keta*の9ロットについて、IDHアイソザイムのIdh-A2、LDHアイソザイムのLdh-A1、MDHアイソザイムのMdh-B1およびAATアイソザイムのAat-A1の4遺伝子座の対立遺伝子頻度を調べ、1977年に各河川に遡上した集団の既知の対立遺伝子頻度と比較した。その結果、1ロットの1遺伝子座を除いて、1977年と2003年に同一河川に遡上したロット間の対立遺伝子頻度に統計的な差異は認められなかった。このことから、これらの3河川では1977年から2003年の26年間にわたり河川集団内の遺伝的組成が比較的よく保存されていると推察された。

岩手水技七研報, 6.1～6 (2006)

サクラマス*Oncorhynchus masou* 資源造成技術の開発について

大友 俊武 清水 勇一 高橋 憲明

本県定置網における春の重要魚種として、サクラマス*Oncorhynchus masou*資源の増大を目的に、標識魚を放流することにより親魚の回帰状況を調査した。安家川では1985年以降、毎年、約20万匹の幼魚を放流しているが、沿岸回帰率は0.5%未満で非常に低い値となっている。また、沿岸漁獲量と河川そ上には関係が見られず、秋に遡上した親の子は、秋に回帰する傾向が見られた。

本調査の結果、回帰率が極めて低いことから、急速に増殖事業として確立するには困難な魚種であると考えられるが、岩手県固有の遺伝形質を保全していくために、今後、維持、管理手法の確立が必要である。

岩手水技七研報, 6.7～13 (2006)

ゴマフェダイの岩手県からの初記録

後藤 友明

2005年10月12日に岩手県宮古市田老地区の定置網によって採集された標準体長525mmのフェダイ科魚類1個体を精査した。その結果、本個体は背鰭の基部が鱗で被われること、吻の背面がほぼ直線状であること、側線よりも上方の鱗列が側線とほぼ平行に並ぶこと、眼下幅が狭いこと、体全体が一様に赤褐色で明瞭な斑紋がないこと、などの特徴に基づき、ゴマフェダイ*Lutjanus argentimaculatus*と査定された。本種はインド洋から西部太平洋の亜熱帯域に分布し、日本では兵庫県と高知県以南からのみ報告されていることから、今回採集された本個体は岩手県を含む北日本からの初記録と判断された。

岩手水技七研報, 6.15～17 (2006)